

金曜日の会 報告

1 期 日 11月13日 19:00~21:00

2 場 所 倉敷労働会館

3 参加者 O、AK、AS、YO

4 内 容

『大造じいさんとガン』解釈 AR、AK

『ごんぎつね』解釈 AS

『ひばりのす』解釈 YO

○教材解釈をする時に、ドラマ仕立てに解釈をしてみる事が、実際の授業を子どもたちの目の開くものにつながる事につながります。解釈文を書く時も、よっぽどのおかしさを持った大問題から書いてみる事です。これが、授業展開につながります。

最後の場面では、63段落の『晴れ晴れとした』原因を62段落の会話文で考えます。その『堂々と戦おうじゃあないか。』には、一羽のガンも捕れなくても戦うという、大造じいさんの決意が見られます。これは、『ひきょうなやり方でやっつけたかあないぞ。』という願望レベルから明らかに違っています。また、この段階では相手に対するわだかまりは勿論のこと、自分の中の(プライド)わだかまりも完全になくなっています。

感嘆の声をもらした場面は、13段落の『がんは、』の部分を段階的に詳しく読むことで、これを群れの全員が行っていることから、感嘆の原因を14段落で考えることにつながるという授業者の意図がよく分かりました。

○ごんぎつねでは、やはり『夜でも昼でも、』の昼でもの部分の異常さをやらなくてはなりません。そして、『いたずらばかり』の具体的な内容を考えることで、相手にしてほしいというごんに気づかせることが大切です。

○ひばりのすも、大問題から考えてみる必要があります。また、一連で『たまたま見つけた』を対立の一方にもってくるのではなく、探していたのか否かを問題にする方が、良かったです。文責YO